

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュあんじょう2号店		
○保護者評価実施期間	2024年12月9日 ～ 2024年12月27日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2024年12月9日 ～ 2024年12月27日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月22日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童の特性に合わせた職員配置を行い、子どもの気持ちに寄り添った支援をしている	送迎やその日に来る子の特性に合わせた人数配置を行い、一人一人の特性やペースに合わせて補助に付き、支援している。	非常勤職員も含めて研修への参加率を上げるなどして職員一人一人の支援の専門性を高めていく。
2	子どもや保護者との意志の疎通や情報伝達のための配慮を行っており、定期的に通信やSNSを用いて活動報告を行っている	その日の活動の様子やケガなどは送迎時やお迎えの際に直接お伝えできるようにしており、海外の方には翻訳アプリを使用し情報伝達できるようにしている。言葉では伝わりづらい子に対してはイラストなどを用いて伝え安心して過ごせるようにしている。毎月活動を振り返った通信をHUGに掲載するとともに、Instagramでも随時、活動の様子を写真付きで投稿している。	職員間での情報共有をこまめに行い、保護者の方への伝え忘れないようにするとともに、Instagramのアカウントを周知し、日々の活動の様子を身近に感じていただけるようにする。
3	支援プログラムが固定化されないように工夫されており、児童発達支援計画に沿った支援が行われている	週ごとに活動を変えており、それぞれの児童の支援方法についてミーティング等で話し合い、活動に取り入れられるようにしている。	長期休み前などに保護者の方に行ってほしい活動やお出かけ場所などのアンケートを取り、保護者の意見も反映できるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会を作れていない	保育所や認定こども園、幼稚園等と交流するための許可や打ち合わせを行う時間を取ることが難しい。	公園に行った際には地域の子どもたちと一緒に遊ぶ機会があるが、近所のお子さんや保護者の方を事業所に招いたりなどのイベントを行い、地域のこどもとの交流の機会を作っていく。
2	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会を行ったり、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援ができていない。	懇親会を開催した際に保護者の方も含めて研修を行ったこともあるが、平日開催だったため参加して下さった方も少ない状況だった。	保護者の方が参加しやすい日程で保護者向けの研修会や懇親会を行うとともにきょうだい児も参加できるようなイベントを企画していく。
3	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が保護者に十分に周知・説明出来ていない。	契約の際にマニュアルについて周知し、説明を行っているが細かいところまでお伝えできていない。	保護者の方が常に見られる位置に配置し、モニタリング時などに見てもらえるようにしていく。